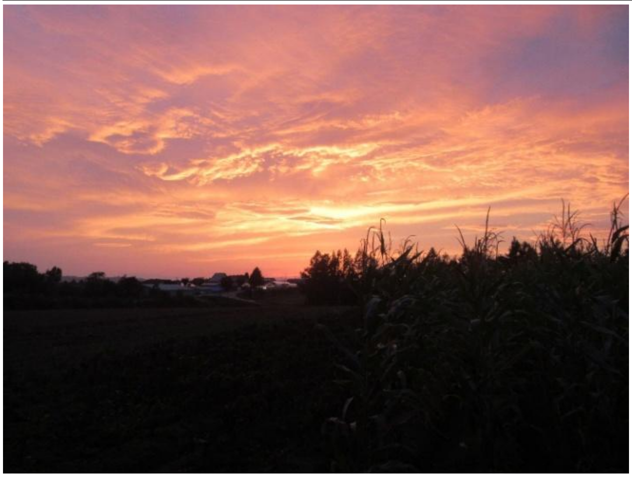
一般社団法人
ＭＯＡ自然農法
文化事業団

美幌会

感謝と健康をベースにした　人・家庭・まちづくり

栃の木からの手紙

２０２５年　長月　９月号



７日：　白露
８日：　満月　旧　７月　１７日
皆既月食　皆既始め　２時３０分頃
皆既終了　３時５３分頃
２２日：　新月　旧　８月　１日
２３日：　秋分

立秋を過ぎ食用芋の収穫に明け暮れたお盆。８月末、食用芋の選果箱詰出荷作業の合間に有機ＪＡＳ畑の様子を見にやって来て赤ビーツの様子にガッカリ。褐斑病で葉っぱが無い。この場所、連作だよね。ちょっと寂しい気分、荒井由実の詩が心を過ぎる。

晩夏　　作詞・作曲　荒井由実

〽　ゆく夏の　名残る暑さは
夕焼けを　吸って燃立つ　葉鶏頭
秋風の　心細さは　コスモス　・・・　〽

今年の有機赤ビーツは、前年より収穫量がかなり少なくなりそうだ。

赤ビーツの移植で残った苗を、昨年に廃耕したアスパラ畑やアスパラハウスに植えてあったものは、物凄く元気。８月中旬に、赤ビーツの加工の予約を２ヶ月も前からお願いしていて、今回はこの慣行の赤ビーツで加工をしてもらいました。

食用芋の選果はまだまだ９月末頃まで続きますが、その間に澱粉芋を収穫して秋播き小麦を２０日頃に播種しなければなりません。

その澱粉芋も例年と状況が違う。茎からの芋離れが悪く機械に詰まるのです。芋の付いた茎が詰まり芋が機械の中に溜まってしまい、コンベアは動いているのに芋は流れてこない。酷くなるとコンベアも動かなくなり復旧するのに時間が掛かる。またそんな時には機械が走ってきた後ろに芋が点々と落ちている。拾うのも一苦労。今年の澱粉芋の収穫作業は、芋の落ち口に注意を払い、芋の流れが悪くなったら直ぐに機械を止めて点検。また畝の出入りの時に機械の茎詰まりの点検場所を必ず掃除して対応していました。